

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2018年4月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第593号

「われここに立つ」。一五二一年ヴォルムスの帝国議会に召喚されたマルチン・ルターはこの短い決意表明によって、改革者としての信仰をつらぬいた。昨年、宗教改革五〇〇年にあたって、ルターのこの表明はどのように読み直されたのだろうか。ルターの立脚地は、長く沈潜研究した聖書の救済論にあった。その場所をルターは「あそこ」ではなく、「ここ」と呼んだ。ひとは「あそこ」には立つことができない。聖書の真理を自分の事柄として受け止めたときにだけ、その真理は「ここ」と呼ばれ、ひとが立つ場所となる。

しかし、その場所は神の義によって愚かな人間の企てが否定された場所でもあった。ただ、無条件に人間を義とされる神への全幅の信頼だけが敗北の地に立つことが出来る根拠であった。このとき、ルターはかれの視界がもつ限界を遙かに超え出て、神を遠望していた。むしろ、神の視点を借りることで、人生の雑音や夾雑物に惑わされずに、純粹に立つべき場所に到達したのかもしれない。いっぽうで、その後のプロテスタント系教派は、神の視

点を借りるところか、信念という美名に装われた個別の正しさに拘りつづけた歴史を歩んだ。正確な把握が困難なほど、分裂と分離を繰り返して今日に至っている。立場や視点、内在する文化、価値観の相違は相互啓発の好機とされるどころか、信仰者同士のコミュニケーションさえも疎外する要因になりかねない危機

を孕んでいる。こうして、宗教改革以後の近代キリスト教社会は、徹底して人間中心の時代を歩んできた。私事ではあるが、教会での牧会を経験して、現在勤務するキリスト教を建学の精神とする大学に転じて数年のころのことだっただろうか。当時の学長から、学内にキリスト者と非キリスト者の間の溝が

架け橋に立つ



関西セミナーハウス活動センター運営委員 中村 信博

大きくて、責任者として悩んでいると打ち明けられたことがあった。学内の些事にもあらゆる配慮をされる誠実な学長ゆえの悩みであったようにおもわれた。けれど、その日以来、わたしもその溝から這い出せなくなってしまう。どのよう埋めることが出来るのか、またそこに橋を架け

ることはできるのだろうか。そのためにはまず、キリスト教主義大学における少数キリスト者のひとりとして、肥大化しがちな自己意識を、愚かな企てとして打ち砕かれることが必要であった。

札幌農学校を経て東京帝国大学に入学した新渡戸稲造は、「太平洋の橋になり度(たい)とおもいます」と述べた(『帰雁の蘆』)という。その

後の新渡戸は教育者、官吏、東京女子大学初代学長、国際連盟事務次長として内外に幅広く活躍した。架け橋こそが、新渡戸が立った「ここ」であったらう。

若いころ、新渡戸の『武士道』は敬して遠ざけた。武士道と「死」を直結した『葉隠』の印象と封建制社会の倫理を連想したせいかもしれない。浅慮であった。新渡戸の『武士道』は、身分制社会の倫理であるどころか、すぐれた日本文化論であった。新渡戸は、キリスト者として、日本の文化と社会に最大限の敬意を払って生きた。だから、日本伝道失敗の一因は「宣教師のほとんどがわが国の歴史にまったく無知であった」(山本博文、現代語訳)との指摘は安易な責任の転嫁ではない。この事態を引き受けて「ここ」に立とうとする決意の表明でもあった。新渡戸が去ってから八五年を迎えている。いまわたしたちはどこに立とうとしているだろうか。

関西活動センターは四月二一日、佐藤全弘氏を招き「新渡戸稲造の平和」(宗教と戦争を考えるフォーラム)を開催する。(同志社女子大学教授)

シリーズ名	回数	プログラム	予定
関東フォーラム 宗教対話 I	全7回	「日本キリスト教史を読む・明治編」山室軍平、中田重治、高倉徳太郎、賀川豊彦、金井為一郎、植村環、内原忠雄 講師 戒能信生	第1回 5月10日(木) 第2回 6月14日(木) 第3回 7月12日(木) 第4回 9月13日(木) 第5回10月11日(木) 第6回11月 8日(木) 第7回12月13日(木)
関東フォーラム 宗教対話 II	全1回	明治・大正期に設立された教会を訪ねて(信濃町教会、番町教会、淀橋教会)	10月25日(木)
関東フォーラム 宗教対話 III	全3回	「編集者から見た現代日本の知の状況」 講師 未定	日時未定
関東フォーラム 宗教対話 IV	1回	柏木義典公開講演会「柏木義典と現代」 講師 山口陽一(東京基督教大学学長) 共催プログラム	11月17日(土)
関東フォーラム 宗教対話 V	全5回	体験プログラム 「礼拝のためのヴォイス・トレーニング」 講師 友野富美子	第1回5月28日(月) 第2回6月 4日(月) 第3回6月11日(月) 第4回6月18日(月) 第5回6月25日(月)
研修・セミナー・体験交流事業			
聖書を読む講座I	全10回	『イエスの譬え話III』を著者と共に読む 講師 山口里子(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)	第1回 4月10日(火) 第2回 5月 8日(火) 第3回 6月12日(火) 第4回 7月10日(火) 第5回 9月11日(火) 第6回10月 9日(火) 第7回11月13日(火) 第8回12月11日(火) 第9回 1月 8日(火) 第10回 2月 9日(火)
聖書を読む講座II	全5回	「上林牧師と旧約聖書を読む」 講師 上林順一郎	日時未定
神学生交流 プログラム	第10回	神学生交流プログラム 校長 関田寛雄(教団巡回教師)、講師 未定	2019年3月11日~13日
神学生交流プログラム・リユニオン	第1回~第10回	参加者に呼びかけて 関西セミナーハウスを会場に実施予定	日時未定

III 関西セミナーハウス活動センター事業計画

聖書あるいはイエスの福音が、現代の社会の課題に対しいかなる指針を示すかを考える。大学や新聞社などの公開講座とは異なる視点から問題を取り上げる。講師の講演を聞くだけでなく、参加者が講演を廻って語り合い、問題を共有し、深く掘り下げる。お金と時間を割いても、参加する価値のある集会とする。

1. 修学院フォーラム「社会」においては、昨年度に引き続いて「宗教と戦争」について考える会を2回持つ。中東、東北アジア、世界の平和を考える会を4回持つ。継続テーマの「エネルギーを考える」の第7回では、原発を克服する困難と、希望について考える。
2. 修学院フォーラム「福祉」においては、DVと虐待からの救済、山室軍平が遺したものを考える。
3. 修学院フォーラム「いのち」においては、高度先端医療時代の死と、遺伝子組み換え時代の生について考える。またピアノ演奏と語りを通して命の輝きを味わう。

4. 開発教育セミナーにおいては、人権・平和・環境などの地球的課題を参加型学習で学び、私たちの社会のありようを考える。
5. これらに加え、お茶と俳句を楽しみつつ聖書の言葉を味わう会、紅葉の美しい季節に関西セミナーハウスの景観を背景に、お茶とお箏、器楽演奏を楽しむもじまつりを催す。

シリーズ名	回数	プログラム	予定
フォーラム事業			
修学院フォーラム 社会	第1回	宗教と戦争を考える(5) 新渡戸稲造の平和 佐藤全弘(大阪市立大学名誉教授)	4月21日(土)
	第2回	東アジアの平和と和解—近代日本人のアジア認識と平和の取り組みの可能性 山本俊正(関西学院大学教授)	5月12日(土)
	第3回	民族主義と普遍主義のはざままで~旧約聖書から国際平和を考える 月本昭男(上智大学特任教授)	6月30日(土)
	第4回	宗教と戦争を考える:6 宗教改革者の戦争観 村上みか(同志社大学教授)	10月6日(土)
	第5回	武器で日本を守るのか? 岩佐 英夫(弁護士)	12月1日(土)
	第6回	エネルギーを考える第7回 フクシマの困難をどうのり越えるか 講師 交渉中 再生エネルギー社会へ向けて 講師 交渉中	2019年1月13日(日) ~14日(月、祝)
	第7回	キリスト教と政治的課題(仮) 佐藤 優(作家、元外務主任分析官)	2019年1月26日(土)
修学院フォーラム 福祉	第1回	若者の貧困(仮) 藤田孝典((特活)ほっとプラス代表理事、 修学院大学人間福祉学部客員准教授、社会 福祉士) 京都YWCAと共催	6月9日(土) 会場:京都YWCA
	第2回	山室軍平って知っていますか—新島襄の 福祉思想と「良心」の系譜 木原活信(同志社大学教授)	2019年2月16日(土)
修学院フォーラム いのち	第1回	老いをいかに生き、支えるか:2 往きの医療vs 還りの医療—わたしたちは どんな死に方をしたいのか?	7月7日(土)
	第2回	遺伝子組み換えによりデザインされる子ども(仮) 講師 交渉中	9月予定
	第3回	いのちの叫び(仮) 演奏者 交渉中	2019年3月予定
研修・セミナー・体験交流事業			
開発教育セミナー	第1回	開発教育入門セミナー 共催 京都市国際交流協会	6月24日(日) 会場: 京都国際交流会館
	第2回	ビジネスで持続可能な社会をつくる~タ オルから織りなす豊かな社会 池内計司(KKEUCHI ORGANIC株式会社代表)	7月14日(土) ~15日(日)
	第3回	ロヒンギャはなぜ難民になったのか?~ ビルマ(ミャンマー)の来し方行く末 宇田有三(フォトジャーナリスト)	9月15日(土) ~16日(日)
	第4回	新しい日米外交を切り拓く~沖繩・安保・ 原発・TPP 猿田佐世((特活)「新外交イニシアティ ブ」事務局長)	10月13日(土) ~14日(日)
	第5回	今、外国人研修生は~私たちの社会と人権 早崎直美(RINK すべての外国人労働者と その家族の人権を守る関西ネットワーク 事務局長)	11月3日(土) ~4日(日)

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー 2018年度事業計画

I 事業計画基本方針

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、2018年度の事業計画に関する基本方針を次の通り定める。

1. 財団事業の展開

定款に定められた当財団の目的に添って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を一層活発に展開する。

2. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 東・西活動センター

- ① 現行のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。
- ② 参加者同士の対話中心の宿泊プログラムを拡充する。
- ③ アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組む。
- ④ 得られた成果を機関紙による広報を超え、広く社会に発信する。基幹プログラムの成果は出版物として発行などし、知の蓄積を行う。
- ⑤ キリスト教精神に基づく未だ認知の不十分な幅広い課題をプログラム化し、もってキリスト教系メディア、一般メディアの関心を高め、啓発活動を活性化させる。

(2) 関西セミナーハウス

- ① 当財団の事業展開の拠点として、公益目的事業でのさらなる活用をはかる。また、当財団の目的達成に資する諸団体が行う公益目的事業を支援するため、宿泊研修施設を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の広い使用に供する。
- ② リピーター使用者の丁寧なフォローおよび新規使用者の開拓などに取り組み、使用率の向上及び収支の改善を図る。
- ③ 効率的な運営をはかり、公益活動への貢献度を高める。

(3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容並びに各年度事業計画・予算及び事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告する。同時に、東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページ等によって積極的な情報発信を継続する。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

公益目的使用外の一般使用者、企業等への宿泊研修施設の貸出しを行い、その収益の一部を公益活動に資する。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を公益活動に資する。

3. 運営推進体制の安定化

公益目的事業の運営推進に当たって、継続的な事業に関しては明確な方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プログラムについても、必要財源を確保し、活動の安定的展開を目指す。

4. 賛助会員、寄附金の拡充

公益目的事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念の理解、浸透につとめ、アカデミー運動を支えようとする賛助会員及び寄附金の拡充を図る。

II 関東活動センター2017年度事業計画

2017年度には、日本キリスト教会館1階の部屋の改装工事を終了し、関東活動センターの事務所兼集会室として使用することとなった。それに伴い、集会場所が狭くなったので、2018年度からは早稲田奉仕園や早稲田教会の協力を得て、各講座や集会を実施していく予定である。そのような中で、日本クリスチャン・アカデミーの理念に基づき、以下のような諸プログラムを計画している。

1. 「今日の課題」Ⅰとして、学生たちを対象とした読書会を実施する。チューターを大森佐和 (ICU教員) さんをお願いし、特に学生YMCAのOB・OGたちに呼びかけ、今日の課題について学び、また自由に話し合う機会を提供する。
2. 「今日の課題」Ⅱは、現在の政治的状況を踏まえて、憲法改正を初めとする最近の政治状況についての講演会・学習会を予定している。
3. 「宗教対話」Ⅰとして、昨年度に引き続き「日本キリスト教史を読む」シリーズを継続する。今年度は「大正篇 (第二世代)」として、大正期から昭和前期にかけて活躍したキリスト者たちの足跡を追い、この国のキリスト教の歩みを跡づける。なお、このシリーズは2019年度にも「昭和篇 (第三世代)」として継続する予定である。またこの連続講座の参加者に呼びかけて、明治・大正期に設立された幾つかの教会を訪ねてその歴史を学び、また施設を見学するオプション・ツアーを計画している。
4. 「宗教対話」Ⅲは、「編集者から見た現代日本の知の状況」を連続講座の形で、Ⅳは昨年引き続き柏木義門の現代的意義を問う公開講演会を共催プログラムとして実施する。
5. 「宗教対話」Ⅳは、体験プログラムとして、昨年に引き続き「礼拝のためのヴォイス・トレーニング」を実施する。礼拝の司式や聖書朗読、詩編交読、説教などの発声・発語訓練を行う。
6. 聖書を読むシリーズでは、入門的な聖書講座と、フェミニズムの立場からの聖書の読み直し、あるいは今日の視点からの聖書の読み方を探ることを目的としている。また日本基督教団出版局からの要請に応じて、新しい聖書学の成果を、著者を交えた講座の形で計画中である。
7. 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プログラム」については、2018年度も各神学校の賛助を得て、第10回プログラムを実施する。また1第回から第10回までの講師の講演を編集し、新教出版社から報告書を出版することを計画している。なお、この神学生交流プログラムの第1回から校長として協力して頂いた関田寛雄先生を囲む元参加者によるリユニオンも計画している。第10回までの参加者約150名 (その多くは現在各地の教会に仕える牧師・伝道者として働いている) に呼びかけて、関西セミナーハウスを会場に一泊二日で実施する予定である。

シリーズ名	回数	プログラム	予定
フォーラム事業			
関東フォーラム 今日の課題 Ⅰ	全4回	読書会 講師 大森佐和 (ICU教員)	不定期
関東フォーラム 今日の課題 Ⅱ	1回	現在の政治を問う「憲法改正の動きに抗して」 講師 未定	日時未定

開発教育セミナー	第6回	“スマート”でないスマホの裏側～鉱物資源の採掘からEVまで アジア太平洋資料センター事務局長	田中滋 (PARC)	12月8日(土)～9日(日)
お茶のこころと宗教のこころ	全8回	聖書をいっしょに読みましょう 榎本 栄次 (日本基督教団牧師、関西セミナーハウス活動センター所長)		4月～12月(8月除く) 毎月1回第1または第2木曜
もみじまつり		茶席、邦楽、美術展示、音楽演奏 関西セミナーハウスと共催		11月23日(水、祝)

IV 関西セミナーハウス事業計画

2018年度の関西セミナーハウス事業計画は、以下の通りである。

1. 運営方針

1) 公益目的事業の拡大

関西セミナーハウス活動センタープログラムでの活用、他、教育機関、学会、研究会、諸団体、周辺地域と連携し、その文化・教育・社会貢献活動への貢献を拡大する。

2) 収益事業の展開

引き続き、公益目的以外の一般利用者、企業等への宿泊及び研修施設の貸出を推進する。

3) 積極的な販促活動の展開

・2018年は、長年、本施設が支えられているコア利用者(大学、企業、キリスト教諸団体等)への丁寧なフォローを基礎にして、販促活動の強化年度と位置づけ、館長のリーダーシップの元、職員スタッフが一丸となって、利用者の拡大に取り組む。

・そのために、茶室、能舞台、日本庭園などの京都らしい文化的設備が持つ特色を生かしつつ、利用者満足をもたらす運営を行う。

・広報活動は、利用候補先への職員スタッフによる訪問活動のほか、ホームページ、フェイスブックなどの充実をはかり、本施設を幅広く、継続的に広報する。

4) 収支のバランスを整える

長年にわたり、赤字が続いているが、事業の継続性を確かなものとするために、利用者の拡大、諸費用の節減などに取り組み、収支を整合化する。

5) 施設の補修、改修

中長期的観点に立つて設備投資計画を定め、老朽化している施設の補修改修などを行う。そのために生み出されるキャッシュフローから必要な資金を適時積み立てる。

6) 公益活動への貢献

引き続き、公益財団法人の活動を支えるために一定額を設定し、財政的な貢献を担う。

2. 主な数値目標

1) 収入計画 (P&L ベース)

売上高 121,192,000 円
営業利益 2,000,000 円

2) 設備投資計画

当年度予算 10,886,520 円
主な案件 ・本館北棟屋上防水工事
・予約システム開発
・本館北棟 3 階客室及び日本家屋(別館)給湯器取替
・本館南棟 2 階廊下空調設備新設
・日本家屋(別館)屋根一部瓦葺替

3) 宿泊者目標

上半期 4,620 名 (前年度比 96.2%)
下半期 4,430 名 (前年度比 105.4%)
年間 9,050 名 (前年度予測比 100.5%)

4) 年度期首要員 16 名 (以上)

収支予算書 (損益計算方式)

(2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日まで)

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	1,200	1,200	0	
特定資産運用益	18,550	19,520	△ 970	
受取会費	1,500,000	1,502,000	△ 2,000	
事業収益	146,597,869	134,662,382	11,935,487	
受取寄付金	3,600,000	3,520,500	79,500	
雑収益	127,570	206,074	△ 78,504	
経常収益計	151,845,189	139,911,676	11,933,513	
(2) 経常費用				
事業費	144,839,762	144,138,464	701,298	
管理費	3,576,500	4,677,259	△ 1,100,759	
経常費用計	148,416,262	148,815,723	△ 399,461	
当期経常増減額	3,428,927	△ 8,904,047	12,332,974	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	3,428,927	△ 8,904,047	12,332,974	

関東活動センター

●2017年度「神学生交流プログラム」第9回
「エキユメニカル運動の軌跡と神学的課題」

講師：関西学院大学名誉教授
校長：日本基督教団神奈川
教区巡回教師

神田 健次さん
関田 寛雄さん

2018年3月5日(月)～7日(水)
会場：鎌倉黙想の家



第九回神学生交流プログラ
ムは、三月五日～七日、鎌倉
黙想の家を会場に開催され
た。日程がいくつかの神学校
の卒業式とかち合うという事
情があったが、八つの神学校
から一二名の神学生が参加し
た。今回の主題は「エキユメ
ニカル運動の軌跡と神学的課
題」、講師は関西学院大学名
誉教授神田健次さん、そして
校長にはいつものように関田

寛雄牧師にお願いした。

神田先生の二つの講演の内
容やプログラムの詳細はやが
て報告書にまとめられるが、
ここでは参加した神学生たち
の感想の中から抜粋してその
一部を紹介することとする。

相原太郎(聖公会神学院)

このような自らを振り返る
ことのできる教派を超えた交
わりを私自身、今後促進させ
たいと思います。ただ、そう
した交わりが容易にサロン化
してしまうことも自戒を込め
て心に留めておきたいと思っ
ています。私たちが大切にし
なければならないことは、具
体的な日常生活、地域社会に
おいて、どこまで他者の声、
とりわけ他者の痛みに聴き、
自分自身が、そして、大きな
意味でキリスト教会自身を変
えられ、方向を向き直すこと

ができるか、共にテーブルを
囲めるか、ということではな
いかと思います。そうした開
かれた運動の地域的展開を模
索していきたいと今回の参加
を通じて感じているところで
す。このような気づきの機会、
そして全国各地で今後共に働
く仲間との出会いを与えてく
ださった皆様に心より感謝申
し上げます。

掛江隆史(関西学院神学部)

関西学院大学の元教授であ
り、私も何度が授業でご一緒
したことがある神田健次先生
が講演を下さりました。その生
涯を話して下さいました。関
西学院大学の神学部を経て牧
師へと至った、その道へ至る
までの数々の出会いについ
て、またご自身の研究テーマ
であるエキユメニズムについ
て、色々話して下さいました。
フィールドトリップとして訪
れた東慶寺では神田先生
の伝もあり、普段入ることが
できない所まで見せて頂き、
貴重な体験ができました。
特に印象的だった事は、神
学生たちと話し合いを持つ機
会を多く与えられた事で、今
まで触れ合うことのなかった

他教派の事情や課題について
知る事、話すことが出来たこ
とがとても良い刺激になりま
した。とても和やかでありな
がら、実りの多い時を過ごす
事が出来ました。機会があれば
是非また参加したいです！

篠藤順花(日本バプテスト
神学校)

今回「神学生交流会」での
良き学びと交わりのために準
備して下さった方々、見え
ないところで貴い祈りと奉仕
で支えて下さった方々に心
から感謝します。開会礼拝の
時、関田先生のメッセージを
通して、「わたしについて来
なさい」と、主イエスの声が
再び思い起こされました。ま
た一日目の神田先生講演Iの
時、話された内容の中で人間
の正常と異常との境界線につ
いて考えさせられ、人につい
て学んだという言葉が心に
残っています。その学びとは、
生身の人間との出会いを通し
て、主イエスの言葉が繰り返
し想起され、心と魂に刻まれ
ていくことではないだろうか
と思われました。関田先生
がメッセージで話されたよう
にそれぞれの場に身を置いて



の実の体験を通して生れてく
る主イエスの命ある言葉に触
られ、共に生かされている
ことに気づかれました。三日
目のまとめの会で、神田
先生から「Table community
movement」について話され
たことについて深く考えさせ
られました。主イエスの誰も
拒まない食卓のまじわりは、
互いを労り、分かち合う、隔
てのないまじわりでした。貧
しい人々、すなわち、心身の
病に苦しむ人、抑圧され、虐
げられ、彼らの共同体から罪
人とされ、排除された out-
castes の人々を主イエスは招
いて神の国を示唆しているこ
とを思い起こされました。

関西セミナーハウス活動センター

●2017年度 修学院フォーラム「社会」第4回

「原発との共存は可能か？」

「フクシマからの問い」

発題「経済からみる原子力政策」

龍谷大学政策学部教授、原力力市民委員会座長代理 大島 堅一さん

「原発災害を通して見る現代科学技術の倫理問題」

上智大学大学院実践宗教学研究所教授、グリフケア研究所長、東京大学名誉教授 島菌 進さん

2018年1月7日(日)〜8日(月、祝)



「なぜ原発は今なお私たちの課題なのか」は、本誌11月号で論じた。その論旨はこうである。2011年3月のフクシマ原発事故は、私達の社会が抱えている病巣を鋭くえぐり出した。それと真摯に向かい合い、その原因を根源に遡って探り、その問題を克服する道を求めたなら、それは

私たちの社会の新しい出発点になり得た筈だ。しかし私たちの国の指導者たちはそうはしなかった。むしろそれが無かったかの如くに、問題に蓋をかぶせようとした。その結果、病は益々深刻になり、余病をも併発することになった。当活動センターでは、フク

シマ事故とは何であったかを真摯に問い、そこから新しい社会への糸口を探るために、毎年お正月に、一泊二日の修学院フォーラムを開催してきた。その際講師には次の点をお願ひした。一、工学、経済学、政治学などの視点から、原発の問題点とそれを克服する道を、透徹した論理をもって、

やさしく、政治の中枢にいる人にも届く言葉で語って下さること。二、キリスト教あるいは倫理的視点から、原発の問題点とそれを克服する道を示して下さい。三、被災地の実情をしっかりと押さえて下さること。四、一泊二日の全会期中参加者と一緒と考え下下さること。五、講演と議論を記録集として出版することに協力して下さい。今回は、その6回目である。

当初、福島原発事故政府事故調査委員を務め、原子力市民委員会座長で九州大学教授の吉岡 斉先生と、同じく原子力市民委員会の座長代理で上智大学教授の島菌 進先生に講師をお願いした。しかし直前に、吉岡先生が体調を崩されたので、急ぎよ「原発のコスト」で大佛次郎論壇賞を受

けた龍谷大学教授の大島堅一先生が講師を代わって下さった。

大島先生は、豊富なデータを駆使して、明快に、原発は危険で人間が使いこなせない設備であるだけでなく、建設、維持、管理、廃炉に莫大な費用を要し、処理方法の目途もつかない高レベル放射性廃棄物を出し続ける設備であり、世界はすでに再生可能エネルギーに舵を切っていることを示された。

一方、島菌先生は、科学、技術の専門家がしばしばあたかも中立であるかのごとき印象を与えながら、データを手前みそに説明し、時の政府の支配を強化し、避難民などの弱者を切り捨てる政策に加担していることを指摘し、人間の顔をした科学が必要とされるために宗教が必要とされ効な働きをなし得る筈だと述べられた。

ことを確認した。もはや原発に頼る理由は何も無い。早晩原発ゼロで、再生可能エネルギーだけに頼る日が来る。しかし、原発ゼロの社会を達成するためには、次の問題点としっかりと向き合わなければならぬ。一、放射能汚染地域人々および避難民の生活の回復。二、安全で速やかな廃炉。三、高レベル放射性廃棄物の安全で速やかな処分。

このフォーラムから一週間後、当初講師をお願いした吉岡 斉先生が腫瘍のため亡くなられたとの報を受けた。聞いておくべきことを沢山持つておられた方であったが、その時を失なってしまった。幸い、彼が率いた原子力市民委員会が昨年末「原発ゼロ社会への道2017―脱原子力政策の実現のために」と題する説得力に富む書物を出版した。これを、彼の私たちへ遺言としてしっかりと受け止めた

い。

参加者は、約30名で、札幌、筑波、東京、横浜などから繰り返し参加している人もあり、講師を囲んで、積極的に、深みのある議論が展開された。

その結果、参加者一同次の



2017年度賛助会費・寄付金納入者ご芳名 2017年4月1日～2018年3月31日(順不同・敬称略)
ご支援に感謝申し上げます。

- 財団本部 中井 博雅 黒岩 裕二 立石 昭三
終身会員 萩原 好子 経営委員会有志 田中 常雄
神保 正男 服部 千賀子 小久保 正 田中 信子
神保 信子 林 秀雄 佐藤 優 塚本 誠一
中井 博雅 日本基督教団 原宿教会 三和管工機 榎本 博久
小久保 正 平井 文則・祐美子 御柴橋商会京都支部 手銭 秀夫
野田 純一 松岡 俊彦 島田 恒 徳丸 延子
島田 恒 松本 誠 水溜 千枝子 神保 正男
寄付金 毛利 亮子 THE AIRS 菅原直人
中井 博雅 ランデス ハル 関アイウィル
日本基督教団早稲田教会 神学生交流プログラム 竹中 百合子
武藤 高司 荒井 誠 石田 学 関田中工務店
関東活動センター 石田 学 津田 友一
賛助会費 市川 邦雄 浦上 充 中村 晴美
市川 邦雄 犬飼 護郎 伊與田 ユキ子 大鹿 康廣 大橋 祐治 戒能 信生 古賀 博 斎藤 宏 齋藤 洋子 坂下 道朗 島田 治夫 神保 正男
全国教会連合 竹政 志郎 只野 哲 西浦 昭英 西川 嗣夫 根津 建 平井 文則 平井 祐美子 藤野 冷子 松井 直樹 松浦 茂良 松岡 俊彦 武藤 陽一 森野 善右衛門 横野 朝彦 吉田 豊 吉田 博 ランデス ハル
寄付金 石橋 光朗 岡田 春美 日本基督教団鹿児島自治 屋町教会 小林 義彦 坂口 みどり 高橋 喜久江 高柳 九子 千葉 拓司 中井 博雅 中富 頼隆 日本聖霊神学校学生自治会 服部 千賀子 濱田 美也子 林 律 フェリックス R. アインゼル 藤野 冷子 門間 幸枝 谷津 穂子 横浜雙葉学園 吉見 崇一 早稲田奉仕団 匿名 クリスマス寄付金 飯田 庸子 石川 憲彦 日本基督教団市川三本松教会 川北 かおり 河原田 美哉子 上林 順一郎 日本基督教団経堂緑丘教会 惠泉女学園中高・宗教部 小林 誠治 在日本韓国YMCA 菊瀬 萬亀 島田 治夫 神保 正男 園山 鈴江 日本基督教団千代田教会 藤 知佳

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**2018 年度聖書を読む講座 I**

新しい聖書の学び「マルコ福音書をジックリと読む」(第 1 期)(全 10 回)

講師：山口里子さん (日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：4 月～2019 年 2 月(8 月休会) 第 2 火曜 18:30～20:00

◎5 月 8 日、◎3 月 12 日
会場：早稲田奉仕園スコットホール 222 号室

参加費：1,200 円/学生 500 円
共催：早稲田奉仕園

■**2018 年度関東フォーラム 宗教対話 I**

「日本キリスト教史を読む」II (大正篇全 7 回)

講師：戒能 信生さん (日本基督教団千代田教会牧師)

第 1 回「救世軍の指導者山室軍平の生涯と信仰」

日時：5 月 10 日(木)14:00～16:00
第 2 回「ホーリネス教会の創始者中田重治の生涯と信仰」

日時：6 月 14 日(木)14:00～16:00
会場：早稲田奉仕園セミナーハウス 101 号室

東 西 南 北

◎**関東活動センター**

所長代行は、横野朝彦から、原牧人に交代しました。

◎**関西セミナーハウス**

久保田展史、館長、3 月 31 日付で退任しました。

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本キリスト教・アカデミー
代表理事 小久保 正

本部事務局
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館 1 F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com
関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

参加費：1 回 500 円

■**2018 年度関東フォーラム 宗教対話**
礼拝のためのボイストレーニング

講師：友野 富美子さん (元声優、日本基督教団経堂緑岡教会担任教師)

日時：5 月 28 日～6 月 25 日毎週月曜 14:00～16:00(全 5 回)

会場：日本聖書神学校 202 号室
参加費：1 回 1,000 円

◆**関西セミナーハウス**

■**月釜 清心会**

日時：5 月 13 日(日)、6 月は休会 9:00～15:00 受付

於：関西セミナーハウス
年会費：4,000 円、臨時会費 1,000 円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2018 年度お茶のこころと宗教のこころ**
「聖書をいっしょに読みましょう」(全 8 回)

座長：榎本 栄次さん (日本基督教団牧師)

日時：◎5 月 10 日、◎3 月 7 日(木) 13:30～16:30

会場：関西セミナーハウス
参加費：1 回 1,500 円 学生 500 円

(抹茶含む)

■**2018 年度修学院フォーラム「社会」**

第 2 回「東アジアの平和と和解—近代日本人のアジア認識と平和の取り組みの可能性」

講師：山本 俊正さん (関西学院大学商学部教授)

日時：5 月 12 日(土)13:30～17:30

第 3 回「民族主義と普遍主義のはざままで：旧約聖書から国際平和を考える」

講師：月本 昭男さん (上智大学特任教授)

日時：6 月 30 日(土)13:30～17:30
会場：関西セミナーハウス
参加費：2,300 円、学生 1,000 円 (コーヒー込)

■**2018 年度修学院フォーラム「福祉」**

第 1 回「『貧困世代』の未来をどう創るか—若者の貧困を考える—」

講師：藤田孝典さん(特活)ほっとプラス代表理事、聖学院大学人間福祉学部客員准教授)

日時：6 月 9 日(土)15:00～18:00

会場：京都 YWC A
参加費：1,000 円、学生 500 円
共催：京都 YWC A

賛助会費・寄付金報告

2018 年 2 月 1 日～3 月 31 日

(順不同・敬称略)

◆**関東活動センター**

賛助会費

市川 邦雄 5,000
松井 直樹 5,000
藤野 冷子 5,000

寄付金(クリスマス寄付金を含む)

小林 義彦 2,000
中富 頌隆 5,000
林 律 10,000

濱田 美也子 3,000
匿名 7,800

日本聖書神学校学生自治会 3,000
藤野 冷子 5,000
在日本韓国 Y M C A 10,000

フェリックス R. アインゼル 375,000

神学生交流プログラム寄付金

日本基督教団早稲田教会 50,000
同志社大学神学部 40,000
松下 起子 1,000

日本基督教団番町教会 10,000
斎藤 宏 3,000
高德 芳忠 3,000

日本聖書神学校 30,000
中富 頌隆 5,000
河原田 美哉子 5,000

吉崎 聆子 5,000
斉藤 洋子 3,000
川北 かわり 10,000

竹中 百合子 5,000
大橋 祐治 3,000
関田 寛彦 50,000

横野 朝彦 10,000
春名 康範 10,000

◆**関西セミナーハウス**

寄付金

武藤 高司 10,000
荒木 真実 10,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

賛助会費

宇井 裕美 5,000
上田 圭子 5,000
北垣 宗治 5,000
森口 克洋 3,000

寄付金(クリスマス寄付金を含む)

藤田 俊文・恭子 10,000
日本基督教団京都復興教会 5,000
堀部 丈司 5,000
中西 綾子 3,000

鳥井 清司 2,000
桃山アシュラム有志 11,500
山添 みどり 3,000

キリスト教愛真高等学校 34,870
日本基督教団平安教会 5,000
匿名 10,000

和田野 勢津子 5,000
有志 9,200
浅野 凉子 4,000

網野 俊賢 12,680
金山 颯子 7,820
山本 知恵 1,480

鳥井 清司 3,376
水戸 潔 5,000
桃山アシュラム有志 6,000

日本キリスト教団宇治教会 3,000
日本基督教団京都教会 5,000
フェリックス R. アインゼル 375,000

日本キリスト教団洛西教会 5,000
以上、感謝をもってご報告申し上げます。